

彩と笑顔をすまいに



くっかけ七彩の家
施設長 栗原 和也

<施設概要>

法人名 社会福祉法人 洛西福祉会
理事長 村田 清
施設長 栗原 和也
所在地 〒610 - 1101
京都市西京区大枝北沓掛町一丁目3番地1
電話 075-333-7716 (なないろ)
FAX 075-333-7708
七彩すまいる館 地域密着型特別養護老人ホーム 29 床
短期入所生活介護 7 床
住宅型有料老人ホーム 14 室
訪問介護事業所
居宅介護支援事業所
地域包括支援センター

地域密着型介護老人福祉施設くっかけ七彩の家は、旧『洛西ふれあいの里保養研修センター（ふれあい会館）』を改修し、高齢者福祉総合施設として生まれ変わった施設です。この建物の名称は、「七彩すまいる館」とし、ここで暮らされる高齢者の方と職員が、「信頼関係」と「くつろげる空間」を大切にしたい”もうひとつの我が家”と捉え、地域の方々とふれあいながら、心から「スマイル」でいられ、生き・喜びを共に分かち合える「住まい」に彩を添えようと、職員が色々と知恵を出し合って「七彩すまいる館」と命名させていただきました。

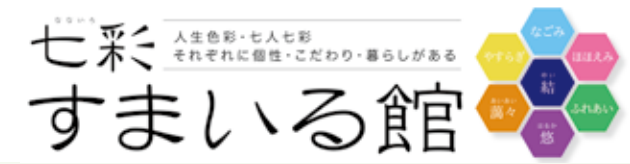
「七彩」とは、地域に親しまれています「ふれあい」を一つの彩(いろどり)と考え、笑顔あふれることを「ほほえみ」の彩とし・打ち解けた気分が満ちていることを「和気あいあい」の彩とし・安心してくつろげることを「やすらぎ」の彩とし・和やかな雰囲気を表すことを「なごみ」の彩とし・心静かに生活を送る、悠々自適の様子を「はるか」の彩とし・人と人を結ぶことを「ゆい」の彩として、それぞれに色付けを行い、各フロアのシンボル色としております。

各フロアをご案内いたします。

1 階は、全室個室の新型特養「ほほえみユニット9 部屋」と、同じく個室型ショートステイ「ふれあいユニット7 部屋」、これから地域の方々と共に介護予防を目的とした教養教室や認知症カフェ等の多目的使用を行うスペース「あいあいホール」、法人本部の事務所を置いています。

2 階は、全フロアが新型特養で、「やすらぎユニット10 部屋」「なごみユニット10 部屋」を独立配置しました。

3 階は、地域の高齢者の在宅生活を支える「居宅介護支援事業所・沓掛寮」と「沓掛地域包括支援センター」



を移転配置し、新たに「訪問介護事業所くっかけ」を新設し、多様な専門性を持った職員が同じ建物に集まることの相乗効果により、桂坂地域での「地域包括ケアシステム」の中心的役割を果たしてまいりたいと考えています。

その運営にあたりましては、これまでの地域の皆様方との協力関係と地域支援の実績を活かしてまいりたいと考えております。

更に3 階には、要介護ではない高齢者の方々の多様な居住選択に応じるため、『住宅型有料老人ホームすまいる』14 部屋を用意し、全室ご夫婦での入居が可能な広さを有する部屋としています。

介護の専門職が身近に居ることから安心して暮らしていただけるものと思っていますし、元気な高齢者の方には、花壇の手入れや各種ボランティアにも従事していただくことにより、暮らしに彩を添えていただくとともに第二の人生を謳歌していただくことを期待しております。

この七彩すまいる館では、日々64 名の高齢者の方々が暮らされるほか、地域の高齢者の方々の在宅生活を支える取り組みも行います。

私たち「七彩すまいる館」は、「沓掛寮」「デイサービスセンター」の職員とともに、地域の高齢者の方々の様々な要望に耳を傾け、地域包括ケアシステムの一員として皆様方に信頼されるよう頑張っております。ことを決意し、七彩すまいる館の紹介とさせていただきます。

これからも何卒、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



新年のごあいさつ

一般社団法人 京都市老人福祉施設協議会
会長 山岸 孝啓
(嵐山寮うたの・ひろさわ)



明けましておめでとうございます。本年が皆様にとりまして、よりよい一年となりますことをご祈念申し上げます。日頃より当協議会の運営に当たりご理解とご協力を賜りまして有難うございます。

旧年中は、12 年に1 度当番の近畿老人福祉施設研究協議会の京都市開催、初めて行った市老協合同入職式、熊本地震の発生に伴う市老協職員派遣と義援金活動、総合事業の支え合い型ヘルプサービス従事者研修の受託、8 年ぶりの開催となった門川大作市長とのおむすびミーティング、すっかり定着した介護の日記念事業等々の様々な活動では会員内外の幅広い皆様のご協力ご支援を頂きました。厚く御礼申し上げます。

特に、京都市を代表して門川市長にはたびたび出席して頂き、熱いメッセージと適切に様々なアドバイスを発信してもらいました。このことは、当協議会の大きな方針の人材確保・育成の課題を中心に京都市として当会の活動に積極的に支援頂いているもの、と心強く受け止めております。

経営の視点では、今年4 月に介護報酬改定が実施されます。今回は「処遇改善改定」とも言われる介護職員処遇改善加算だけを改定する、ほかの加算や基本報酬は変更しないものです。介護人材確保の総合対策で、異例の定例の報酬改定期間でない期中改定で介護職員処遇改善を図ろうとするものです。月1 万円程度の上昇となる前例にない改定と言われるものですが、チームとして働く現場としては介護職員のみという改善でなく、全体への反映を願いたいと思います。平成30 年度の介護報酬改定では人材確保・育成と質の高い福祉・介護サービスの実現のため、報酬改善を国に要望

をしていきます。そのためにも、今年度に当協議会が行った「平成27 年度特養経営指標調査」の結果と分析を基に、根拠ある要望となるように計画しています。

また、当協議会は京都市内の社会福祉法人が運営している入所系の高齢者福祉施設112 施設が全加入されています。全ての施設の加入という例は、全国の組織でも数少ないものです。会として今後も会員施設の声を大切にして、安定した経営やサービスの向上とご利用者ご家族、働く各職員の満足感が高めるように各施設を支援していきます。

高齢者福祉の事業数の拡大があり、「社会福祉法人」の国民の認知度が高まっているかと期待してしまいます。しかし、全国社会福祉法人経営者協議会のされた全国1 万人調査によると、認知度は2 割程度で、内容は知らないが言葉を知っていると回答した割合は6 割でした。社会福祉法人を知る情報源はマスコミ報道が多く、一番は「接することがない」との回答でした。

このことから、各法人の地道な市民への正しい理解を広げて、肯定的な(ポジティブ)評価を高める努力が求められます。当協議会として、社会福祉法人の集合体ですので市民の方を意識した広報や活動実績、信頼を高める年にしたいと計画していますので、どうか今年も宜しくご支援ご協力をお願い致します。

介護の魅力、介護職の社会的評価を高めるために



11月8日に、特別養護老人ホーム洛東園において、門川市長と意見交換を行う「おむすびミーティング」が行われました。「おむすびミーティング」は平成21年以来2回目の開催となり、今回はハートメッセンジャー12名、合同入職式入職者代表（平成28年度新卒採用者）2名に参加していただきました。所属先は、特別養護老人ホーム、ケアハウス、デイサービスなど様々で、それぞれの現場で感じるエピソードが熱く語られました。

一部をご紹介すれば、学生時代にチャレンジ体験で訪れた施設の職員にあこがれて、今その事業所で働かれているというエピソードや、新人ながらご利用者の排泄ケアに取組み、上手くいった時にはご利用者と抱き合って喜んだというエピソードがございました。

また、職場としての魅力も多く語られました。昨今はブラック企業という言葉をよく耳にしますが、参加された職員からは、「1週間連続で休暇もとれる」「男性職員であっても1ヶ月育児休暇が取れている」「残業代もきっちり支給されている」という報告がありま



した。

世間が抱く介護のイメージは、いわゆる3Kという悪いイメージが先行しているように感じますが、実際は**1. 給料がしっかり支払われる、2. 休暇も取れる、3. 希望が持てる！**の3Kであることを知っていただきたいと思います。

意見交換の中では門川市長からも、ご自身の家族介護体験や、介護に期待する思いをお話していただきました。

そして「おむすびミーティング」の中で、私たち介護職員は「**普(ふ)つうの 暮(く)らしを 支(さ)さえる**」専門職ではないかという意見がありました。この頭文字をつなげると「**普・暮・支 ふくし**」になるという視点は、門川市長をはじめ、市民の皆様にも分かりやすく介護という仕事のイメージが伝わる言葉ではないかと感じました。介護は特別なことをするのではなく、その人が最期まで、その人らしく、まさに普通の暮らしを続けられるための専門職なのです。

最後に門川市長からは、「**まごころを込めて利用者に寄り添い、また専門性を発揮しながらご苦勞もある中でがんばっておられる皆様の言葉を聞いてとてもありがたいと思っています**」という暖かいお言葉を頂きました。これからも私たちは、介護の素晴らしさ、やりがいをもっと多くの方に知っていただけるよう活動してまいります。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

京都市支え合い型ヘルプサービス従事者養成研修



平成29年4月から、「京都市介護予防・日常生活支援総合事業」が始まり、その中で新たなサービスとして、「**支え合い型ヘルプサービス**」が始まります。「**支え合い型ヘルプサービス**」とは、高齢者のニーズの高い掃除や、買い物代行等の生活援助（家事）を、研修により一定の技術や知識を習得した方が、家庭を訪問して高齢者を支援するサービスです。

その担い手を養成するため、当協議会は京都市より「**支え合い型ヘルプサービス従事者養成研修**」を受託し、研修を開催させて頂いております。研修は平成28年11月から毎月（必ず2日間の受講が必要）実施し、平成29年3月まで、計5回開催いたします。なお、訪問介護員と同等の資格をお持ちの方は、本研修の受講がなくてもサービスに従事することができる

ため、この研修は受講できませんので、予めご了承ください。

11月、12月の修了者は各40名程度でした。サービスの担い手を養成するため、より多くの方に受講頂ければと存じます。

研修は2月、3月にも行います。2月は、研修が2月21日（火）と2月28日（火）の両日（募集期間は1/20～2/10）です。

3月は、研修が3月23日（木）と3月25日（土）の両日（募集期間は2/23～3/13）です。

支え合い型ヘルプサービス従事者の養成研修にご興味のある方は、当協議会事務局（専用電話番号：075-354-8733）までお問合せください。多くの方のお申込みを、お待ちしております。

ご寄付について

一般財団法人坪井清遊会様より

この度、一般財団法人坪井清遊会様より、市老協会施設の49の施設に67台の車いすのご寄付を頂くことになり、去る11月11日の介護の日記念フォーラムにおいて、その寄付受納式が執り行われました。

代表理事の石羽範子様からのご挨拶と目録を頂き、京都市保健福祉局保健医療・介護担当局長居内学様及び、当会会長山岸孝啓より感謝状を贈呈させて頂きました。また、ご来賓の上京区選出京都市議会議員の寺田かずひろ様からはご祝辞を賜りました。

高齢者福祉施設にとって車いすの需要は高く、大変ありがたいお申し出に会員一同心より厚く御礼申し上げます。頂いた車いすは、各施設において大切に使用させて頂きたく存じます。

故・亀山フサエ様（甥・亀山 巖様）より

昨年秋に、京都市社会福祉協議会を通じて、亀山巖様より当会事務局に寄付についてお申し出を頂き、その後老人の福祉サービス向上の活用を目的として、当協議会に一千万円をご寄付頂きました。

亀山 巖様の叔母の故・亀山フサエ様が生前、京都市内において居宅サービスを受けておられ、その御遺志に添う形でのご寄付とのことでした。

当会事業活動にご理解くださり、大変ありがたいお申し出に会員一同心より厚く御礼申し上げます。

頂いたご寄付は、協議を重ね今後の将来も見据えた老人福祉サービスの向上に寄与する形で、大切に使用させて頂きたく存じます。



「介護の日」記念事業について



「いい日いい日」という親しみやすい語呂から11月11日が高齢者等に対する介護に関し、国民への啓発を重点的に実施する日と設定され、市老協でも平成20年度から京都市の共催のもと、今年度からは京都府の後援をいただき、記念事業として記念フォーラムや広報活動など毎年開催しており、今年で第9回を迎えました。

昨年度に引き続き、「いい日、いい日写真展」を行いました。この写真展は、市老協会員施設を対象としたフォトコンテストで50枚応募のあった写真から入選作品20枚をパネルにして、ひと・まち交流館 京都の1階とゼスト御池 寺町広場の2箇所で開催を行いました。連日多くの方に見ていただき、入居者の笑顔がとっても素敵という声や、この写真を楽しみにして毎日見にきているなどたくさんのお言葉をいただき、今後も継続して実施していく予定で考えています。

また、広報活動として、四条河原町でハートメッセンジャー、市老協役員や人材確保・定着部会のメンバー等総員52名によりティッシュを配り、「介護の日」をPRしました。介護に関する関心は徐々に高まっていますが、「介護の日」の認知度はまだまだ低く、



市老協会長 山岸孝啓

今後も継続してPR活動など、普及啓発を継続していきたいと思っています。

「介護の日」のメインイベントである記念フォーラムは、ひと・まち交流館京都の大会議室で、184名の参加を得て開催しました。

記念講演では、公益社団法人認知症のひとと家族の会 京都府支部代表 荒牧敦子様による「**介護が私に教えてくれたこと**」～住み慣れた地域で介護される心～と題してご講演を頂きました。内容については、家族介護の実体験を聞いたことが勉強になった、家族介護の大切さを知る事ができたなどの意見が多数寄せられ、その他にも、介護の経験で得た事をどのように役立て、活かすのかなど、参加した学生も、現職にとっても、介護自身を改めて考える機会になったのではないかと思います。

引き続き、今年度の新たな取組として、「**自分の中で忘れられない介護体験やそれに伴う介護に対する想い**」をハートメッセンジャーに作文を書いてもらい、選出された船越孝志さん（特別養護老人ホーム豊和園）、小役丸友里さん（嵐山寮特別養護老人ホームうたの）、仲村拓人さん（特別養護老人ホーム山科積慶



京都市長 門川大作氏

いい日いい日

介護の日

ハートメッセンジャー

園)の3名のハートメッセンジャーに、ご利用者からの言葉によって自身の介護感に影響を与えたエピソード、外出支援に関するエピソードや、看取り介護に関するエピソードを報告して頂きました。感動したという感想を多数頂き、会場の中でも涙される方もおられました。

次に、平成28年4月に発生した熊本県地震による市老協独自の災害支援の報告を小林大介さん（特別養護老人ホーム長楽園）にして頂きました。小林さんは市老協独自の災害支援の第1陣派遣を務められ、現場で実際起こっていた出来事、災害支援の内容を語って下さいました。

また、門川大作京都市長もご公務ご多忙の中、このフォーラムに駆けつけて下さり、11月8日のおむすびミーティングのエピソードや、「**プラスのメッセージやプラスの印象を伝え、皆で支え合う社会を作っていきたい**」と心強い応援メッセージをいただきました。

門川大作京都市長におかれましては、第1回目の記念フォーラムから9年連続欠かさずご出席いただきご挨拶いただいております。

次にシンガーソングライターの堀内圭三さんとハー

トメッセンジャーコーラス隊による「**花は咲く**」「**ハートメッセンジャー**」の2曲の合唱が行われました。

16名のハートメッセンジャーは、昨年から引き続き、にしがも舟山庵の井篠友和さんに歌唱指導をいただき、計4回の練習を重ね本番に臨み、見事、練習の成果を発揮し、素晴らしい合唱を披露してくれました。

とても良かった、心に響く歌だった、勇気をもらえたなどご意見を多くいただき、今後も色々な場面で活躍の機会を得る事ができればと思います。

最後に河合悟副会長の閉会の挨拶で今年も無事に終了することができましたが、この日は、72名のハートメッセンジャーが忙しい中、参加していただき、それぞれの担当で様々な役割を果たしてくれました。

また、その所属の施設長様におかれましては、お忙しい中、開催趣旨をご理解いただき、ハートメッセンジャーを派遣くださりまして厚く感謝申し上げます。

この介護の日の記念フォーラムも、来年で10年を迎えることになります。より、多くの方々に、介護の日を通して、介護の素晴らしさを継続して伝えていければと思います。

これからもご協力の程よろしくお願いいたします。



山科区市老協地域貢献プロジェクトの取り組みについて

特別養護老人ホーム長楽園 小林 大介

山科区地域貢献プロジェクトは平成27年度に行政からの健康長寿推進事業への協力依頼により発足し、京都市老人福祉施設協議会（以下、市老協と記載）に加盟する山科区内の9施設から担当者が集まり、高齢化率の上昇が著しい山科区が抱える様々な課題に対し、介護施設としてできる関わりを模索してきました。

平成28年度には当初の呼びかけ人である行政の方針転換などにより、市老協加盟施設が主となりプロジェクトの運営や予算を拠出し、行政についてはオブザーバーとして関わる形で活動を続けて参りました。

平成28年度のプロジェクトでは平成27年度に引き続き、区民の求めるセミナーの開催を予定。その他には、地域で開催される区民まつりへの参加などを検討しておりました。他にも何か地域に役立てることはないかと協議をしていた際に、やましな介護者の会“はげましの会”から特養やケアハウスをテーマにした地域向けの公開セミナーを開くため協力して欲しいとの依頼を受け、山科区地域貢献プロジェクトとしてお受けすることを決めました。以下はプロジェクトとして平成28年度に取り組んだ事例の詳細となります。

◎取り組み①

11月14日(水) 山科区地域貢献プロジェクト企画セミナー第二弾～認知症介護者養成研修～

“地域の関心に則した内容を”を念頭に協議を重ね認知症をテーマにしたセミナーを開催。講師にはそらの木の紹介で、いわくら病院の東医師と増本介護福祉士にお越し頂き講義を頂きました。

この取り組みでは、山科区社会福祉協議会を通じボランティアとして2名の地域住民の方にも関わって頂き、継続した関係性を築く足掛かりを作ることでもできました。

◎取り組み②

11月19日(土) 山科・介護者の会「はげましの会」公開講座～特養・ケアハウスのこと知ってますか～

この取り組みでは毎月行われる「はげましの会」の世話人会にプロジェクトチーム員を派遣し、山科区内にある各施設の違いが一目で分かる比較一覧表の作成などを行いました。開催当日には62名（はげましの会発表）の方にお集まり頂き、各施設担当者がそれぞれの施設について紹介を行いました。

施設紹介の後には、施設ごとに個別相談に応じる時間となり、終了時刻が過ぎても相談が終わらないような状況でした。この取り組みで住民の方々の施設に対する関心の高さが分かり、今後の活動に繋がる大きな収穫がありました。

◎取り組み③

11月23日(水) ふれあい“やましな”区民まつり

やましな区民まつりは山科区役所が事務局となり長年山科区で行われてきた市民参加型のお祭りで、ステージ上でのイベントや出店だけでなく、官民の様々な団体がブースを出展し、趣向を凝らした企画で団体の取り組みを紹介したり、啓発したりするような内容で

終日行われています。

プロジェクト発足当時から、やましな区民まつりへの参加は話し合われて来ましたが、ブースを獲得することはとても困難な状況で、当初は会場内でチラシを配布しようと話し合っていたのですが、運よく出展ブースを頂くことができました。出展団体には団体の取り組み紹介をするのみではなく、誰もが体験でき子供うけする出し物を用意することが求められており、お菓子すくいや昔ながらのおもちゃを用意し、子供から大人まで自由に遊んでもらえるようにしました。

市老協のアピールについては、市老協ジャンパーをお借りすることとしましたが、それでもインパクトが足りないだろうとの意見から、各施設にある着ぐるみを着用の上で市老協ジャンパーを着用し、昨年度に作成したチラシを配布することとしました。

まつり当日には各施設担当者が早朝から集まりブースの飾り付けやパンフレットの準備、相談スペースの準備を行いました。着ぐるみ効果があったのかは定かではありませんが、挨拶に来場された、門川京都市長の目にも止まり記念撮影の機会を頂くこともできました。

その後、香東園やましなの協力により法人の持ち物である“ゆるキャラ”も投入し、子どもからお年寄りまで250人がブースに来場下さり、用意したお菓子は全て完売。数件ではありましたが、入所相談や施設紹介を希望される方もお越し下さり大盛況の内に終えることができました。

どの取り組みについても、やってみたことで地域に暮らす方々の声や施設の見られ方を知ることができました。同じ行政区にある各施設担当者が集まり、地域のことを考え、地域の特色に合わせた取り組みを行うという、とても有意義な体験をさせて頂いたと感謝しております。冒頭にも記した通り、山科区が抱える解決しなければならない高齢者問題は山のようにあります。これからも“地域に貢献するとはどういうことか”と言うことを問い続けながら、自己満足に陥らないよう次の取り組みに繋げていきたいと考えております。



市原寮と市原野社会福祉協議会との連携について

社会福祉法人市原寮 介護老人福祉施設 市原寮
生活支援コーディネーター 三角 良
(市原寮)

市原寮は開設55周年を迎えます。市原野社会福祉協議会（以下市原野社協）発足当時から38年間の親密な協力があったからこそ、地域に密着した活動を続けて来られました。市原寮では、年間延べ約2000名のボランティアの方々にお世話になっております。近年、防災意識が高まる中、今年2回目となる炊き出し体験を市原野社協はじめ、市原野自治連合会、市原野自主防災の皆様のご協力のもと開催させて頂きました。多くの皆様にご参加頂き、より防災や共助についての認識が深まったのではないかと思います。

市原野社協の皆様には毎年恒例の市原寮夏祭りは勿論、社協プチハイキングや「バザールいちはらの」、区民運動会、桃の花見「玄武の会」等々、ご利用者が地域行事に参加する際にもご協力を頂き、生き生きとした暮らしに繋がっております。市原野社協主体では、市原寮の喫茶コーナーで月2回の甘党喫茶・辛党喫茶を開催、地域高齢者への雛祭り配食・七夕配食・クリスマス配食のお弁当や、市原野区民運動会ふれあい席のお弁当を、市原寮が献立・発注・調理しています。更に地域での脳トレ教室や社協ミニミニデイの送迎は市原寮職員が行うなど相互に協力しております。最近では市原寮に来られるマジックショー等のボランティアの方々をミニミニデイ等に斡旋し喜びの声を頂いております。

市原寮では、以前から認知症予防・改善の取り組みとして「音読・計算活動」を行って参りました。「音読・計算活動」とは、1人のサポーターが2人の学習者と簡単な音読・計算を継続的に行う認知症予防の脳トレーニングです。昨年5月に市原野社協を初めとする地域住民にサポーター養成講座を実施致しました。現在23名が週に一度、市原寮で活動して頂いています。

サポーター活動を通して認知症や介護状態への理解が深まり、ご利用者・サポーター共に「喜び」が生まれています。市原野地域でも脳トレ教室を実施されていますが、参加者の高齢化により教室の開催が難しくなりつつあるとのことで、今後市原寮職員からサポーター派遣を考えております。また更に、市原寮での音読・計算活動の見学や参加を地域に呼びかける計画です。認知症や要介護状態への不安を抱きながらも相談

を躊躇している方々が、施設へ気軽に足を運ぶきっかけとなり、より安心して暮らして頂くことを目指したいと思います。

昨年12月には49団体63名のご参加を得て「ボランティア交流会」を開催致しました。日頃の感謝の気持ちをランチのおもてなしに込め、ボランティアの皆様同士にも交流をして頂きました。これからも市原寮はボランティアの方々をはじめ、地域の皆様と連携しながら住み慣れた地域で安心して暮らせる地域づくりに邁進して参りたいと思います。

【音読・計算活動の様子】

